

## 国内経済情勢

### 概観

金融引締めは、引き続き経済実体面に浸透し、企業金融は、総じて次第に繁忙に向かい、商品市況は、需要期にもかかわらず主力商品を中心に軟弱な地合いを続けている。また製品在庫圧力から生産調整をはかる業種も漸増している。しかし、生産は、一高一低のうちにも、増勢がいくぶん鈍化しているとはいえ、なお根強い基調を続けている。

この間、貿易収支は輸出の好伸にささえられて引き続き改善を示しているが、上記の生産活動などからすれば、なおその先行きには不確定な要因が少なくないようである。すなわち、最近の先行指標では、輸出が高水準のうちにも横ばいぎみとなる反面、輸入が漸増傾向を示している。

こうした国際収支の動向のほか、ここへきて消費者物価にもいくぶん騰勢の強まる気配があらわれており、当面これらの成行きを見守ってゆくことが肝要と思われる。

#### 銀行貸出の抑制持続から、企業金融は漸次繁忙

9月の金融市場をみると、月央までは、銀行券の順調な還流と月初税揚げ後の財政資金の大幅散布により、この間約1,000億円に上る本行の債券売却が行なわれたものの、市場はおおむね平静に推移した。しかし月央以降は、恒例の給与払いや期末決済資金の需要などから、銀行券が増発に転じたため、市場は再び繁忙となり、本行貸出は月中261億円の増加となった。

9月の全国銀行貸出増加額は2,512億円と前年同月の増加額を16%下回った。当月の資金需要は、恒例の期末決済資金のほか貿易関係資金、

共同証券関係資金なども加わってかなり旺盛で、銀行筋では引き続き貸出抑制に努めた模様である。このため、企業金融は個別的にみればなお区々ながら、総じて繁忙を続けている。

なお、9月の企業倒産は、負債金額では前月を下回ったものの、件数ではこれをわずかに上回った。

#### 商品市況は総じて軟弱地合いながら、消費者物価は騰勢強まる

最近の商品市況をみると、商品により動きは依然区々であるが、大勢としては軟弱な地合いが続いている。すなわち、非鉄、化学、燃料などの一部には、国際的な需給のひっ迫(すず、銅、肥料)や供給面の制約(基礎薬品、石炭)などから、なお堅調ないし強含みを呈するものが見受けられるが、主力商品である鉄鋼、繊維が軟調を持続しているほか、産業用紙、セメント、軽油、砂糖なども弱含みに推移した。

このような商品市況の動きには、生産の根強い増加基調や供給余力(鉄鋼、繊維、セメントなど)の存在など供給面の事情が働いていることはもちろんであるが、金融の引き締まりに伴う実需筋ならびに流通部門の仕入態度の慎重化といった需要側の要因もかなり大きく響いている。

9月の本行卸売物価は+0.4%と続騰を示した。これは主として、非鉄、食料品(雑穀、鶏卵)、木材(良質材)の値上がりによるもので、繊維、鉄鋼など主力商品はかなりの低落を示した。なお10月上旬の卸売物価は、非鉄、木材が引き続き小幅上昇を示したものの、前記主力商品の軟化から保合いとなった。

一方9月の消費者物価(東京)は、前月比+0.6%とかなりの上昇を示し、今後の動きは予断を許さないように思われる。当月の上昇は被服、食料

品が値上がりしたほか、家賃地代、自由料金も根強い騰勢を続けたためである。また、10月の本行小売物価は、食料、繊維品を中心に前月比+1.7%と続騰した。

#### 生産は一高一低のうちにもなお根強い動き

鉱工業生産(季節調整済み)は8月-1.6%と減少のあと、9月は速報で+2.9%と急増し、月によって大きなふれをみせているが、これをならしてみると、増勢がいくぶん鈍化しているなかにも、なお根強い基調が続いている。こうした動きの背景としては、金融の引き締まりに伴い、このところ製品在庫増大などの圧力が次第に強まってきたものの、産業界ではシェア競争やコスト圧力などからできるだけ操業度を維持しようとする向きが依然少なくないことも見のがしえない。

9月の生産増加は、一般機械(化学機械、運搬機械など)、テレビ、自動車などをはじめ、8月減少の反動とみられるものが多いが、このほか、化学、紙・パルプの増加に加え、鉄鋼が条鋼類の夏場における市況反騰を眺めて増加したことなどもかなり響いている。

9月の鉱工業出荷(季節調整済み)は速報で+3.5%とかなりの増加を示した。これは耐久消費財で、オリンピックを控えてのテレビの出荷が大幅に増加したほか、資本財、生産財でも、生産と同様7~8月にかけての落込みの反動増がみられたためである。

9月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み)は、+1.3%と引き続き増加した。テレビや自動車では出荷の好調から在庫がかなり減少したが、その他の在庫は総じて増加した。

一方、最近の設備投資関連指標の動きをみると、設備投資は高水準ながらここへきていくぶん着ききぎしがうかがわれる。すなわち、一般資本財の生産、出荷は月により一高一低を繰り返しながらも、その増勢には鈍化の傾向がみられる。また先行指標である8月の機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)は、鉄鋼、化学、紙・パル

プよりの受注堅調を中心に前月比+2.4%の増加となったが、最近の動きをならしてみると、おおむね高水準横ばいとなっている。

#### 貿易収支の黒字は持続するも、輸入は先行き漸増傾向

9月の外国為替収支は総合で12百万ドルの黒字となった。これは経常収支が、輸出の伸長による貿易収支の改善(79百万ドルの受超)から、前月に引き続いて33百万ドルの黒字となり、短期資本の逆調を主因とする資本収支の赤字をカバーしたためである。

9月の輸出は前年同月に比し為替で+26%、通関でも+19%と引き続き好調であった。商品別の動きを通関で見ると、鉄鋼、船舶、ミシン、合繊などが相変わらず伸長しているほか、水産品、玩具なども比較的好調である。しかし、輸出信用状をみると前年比伸び率は+20%と高水準ではあるが、6月をピークとして低下しており、また季節性を除いた実勢でも横ばいを続けていることは留意しておく必要がある。

9月の輸入は、前年同月に比べ為替で+14%、通関で+15%とかなりの増加を示した。商品別の動きを通関で見ると、食料が砂糖、小麦の減少から引き続き低水準にあるほか、機械も着きき状態を続けているが、原材料は、石油や一部金属原料を中心にかなりの増加となった。こうした原材料輸入の増勢は、輸入に関連の深い業種で根強い生産が続いていることによるものとみられる。先行指標でみても、9月の輸入信用状は前年同月比+14%の上昇、7~9月をならしてみても前年同月比+6.9%(4~6月は-2.6%)となり、信用状なし輸入の増大傾向を考慮するとかなり水準が高まりつつある。また輸入承認にも同様の傾向がうかがわれる。前記のように、原材料輸入が漸増している上に、ここ数ヵ月輸入全体の着ききに寄与してきた砂糖価格の低下、小麦輸入の減少といった特殊要因の影響も次第にうすれつつあるので、輸入は先行き漸増傾向をたどるものと思われる。